

全国をゆるがせた七日間

「どこまで苦しめ
ればいいのか」

怒り爆発の坑底すわり込み

国会最終日の七月二十一日にむけて、CO患者の完全補償と完全なCO中毒法を要求するたかひは、山元の坑底すわり込みを中心と大きくも上がった。このたかひは「全国をゆるがせた七日間」であった。

着のみ着のまま
弁当一つもって

七月一日以降の市役所前すわり込み、七月十一日からの三川鉱長室すわり込み、山元のたかひも中央に呼応してささるるまじりで行ったが、七月十四日午後七時四十分ごろ、鉱長室すわり込み交替のために堀内に入った家族の会全労組に支えられて成功のうちにしにた。

約一時間二十分まで坑底について主婦たちは、七目貫に毛布をしきすわりこんだ。
あわてた会社側は、この行動に手も足も出ず、坑底すわり込みは七十五名は、三井鉱山や政府のあまにも冷嘲な態度に、ついに怒

日を追うごとに大反響

新労組員、組夫が協力

坑底すわり込みが伝えられるや、つめかけた新聞記者もさるる全国に大きな反響がまきおこつた。全国から寄せられる激



CO家族の人々は、百四十四時間の坑底座り込みのあと、帰ってきた。



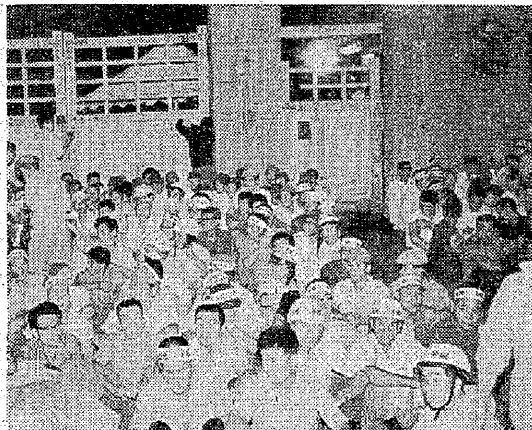
鉱業所へ
はげしい怒りのデモ

会社の愚かな弾圧の目をくぐって、美しい労働者の連帯が暗い坑内で花咲いた。
「ウチのカアちゃんに、ちったあ家族の会の人たちを見ならせといた」
「きのうは三池労組がストやっ

警官介入を阻止した

深夜の緊急動員

あせりにあせった会社側は、参議院をCO法案が通過した十九日



19日、実力で坑底座り込みのCO家族を排除しようという警察側の動きに呼応して、組員・家族は「すわノ」とばかりに、三川鉱にかけつけた。

貯金ガメを
そっくりカンパ

小浜南 松 本

去る七月九日、CO闘争のいっせいの署名行動日、小浜南地域分會では大正校区の分會の方たちとともに大正校区の署を活動をおこないました。その際、本町六丁目のYさん宅において署名はもちろん、カンパについては、ダルマの貯金ガメの口を開け、その中に入っていた金額(五十円三枚、十円六十枚、五円二十八枚、一円九十七枚)九百八十七円をいただきました。
百円、五十円、十円とカンパしてもう一つにも感謝し、この強く思っているのだから、

編集部より
おねがい

組合員・家族の皆さん、私たちはCO闘争という大きな闘争を経験し、三池の歴史のうにまた輝かしい一ページを書き加えることができました。

述べるまでもなくこの闘争は、これからのつぎですが、これからいっそう力強く闘うためにも、こんどの闘争から学ばなければなりません。とりあえず、皆さんがこんどの闘争の中で経験なさったこと、考えられたことを、本紙にご投稿下さい。お互いに学び合おうではありませんか。

たたかう坑底の主婦たち
岩盤の上で腰は痛い

毎日ふえる新労組員の激励

CO家族の会が決定的坑底すわり込みに入つてすでに五日目、坑内には同じ副長が係員をつれてきて、便所や座り込みの周囲を消毒し、天井をのんびりに点検したりした。

最初は足がガクガク

十四日の夜、みんな三川鉱の斜坑を少ない懐中電灯をたよりに下りはじめたときは、緊張で足がガクガクした。斜坑の途中で一度休けいしてからやっと落ちつき、あとは「ここが爆発したところやろ」とか、「ここを父ちゃんたちはタンカで運ばれたつね」と話しながら坑底についた。

と新労組員

座り込み前は前を通つて入、昇坑する全員に、ぜひ理解をしてもらわねばならないという気持ちから通る人にはすべて「安全に」とか「おけがのないように」と声をかけている。

最初のころはびっくりしていた新労組員も「ぐうぐうさん」「がんばりなせ」と大声をかけていく数が多いことに加え、いまや組織の別をこえた共通の連帯感が出てきている。

「声のたより」も

とどく

七目貫には奥の方に、ビニールや毛布を張つて便所をつくり、岩盤の上にビニールと毛布をして座っている。固い岩の上なので、さすがに腰が痛そうだが、口に出す人は一人もない。

消毒や保安点検も
させる

十四日の夜は三川鉱の副長がきて、「すぐ上がれ」「会社はあん

たたちの安全について責任はもたんとしたので、みんなは「私たちの責任はとらんよ」がはって、そのかわりにうちの父ちゃんを身体をあげんした責任はとれ」とつめよったので、だまって引きあげてしまった。

ここまでくれば、もう男や女の別はなく、意気天をつくばかりだ。その会社もあまり強引なこと